

○議長 辻本 一夫君

次に4番、萩原議員の一般質問を許します。萩原議員。

○議員 4番 萩原 洋子君

4番、萩原です。件名に従いまして一般質問してまいります。

件名1、飼い主のいない猫について。

数年前より町民から「庭や玄関先で猫がふんをするので困っている。」や、「ある地域に猫が増えている。」といった相談が続いております。ある住民は「捕獲器で猫を捕獲したものの対処に困り、町に相談しても『捕獲器は設置しないように。』と言われたため、逃がすときはとても怖い思いをした。」との話を聞きました。また、野良猫が増えている地域では商売に影響が出ているといった話もあります。

そのため私は、以前から町に対して何らかの対策を講じるよう何度も求めていましたが、町の施策としては猫よけ機といった一時的なものしかなく、根本的な解決策はありませんでした。猫は1回の出産で4～8匹の子を産み、1年に2～4回出産することが可能で、飼い主のいない猫、つまり野良猫を放置すれば、ふんや鳴き声などの問題が発生します。また、猫も適切な環境で飼育しなければ、病気やけがなどで短い生涯となってしまいます。これ以上野良猫が増えないよう、町は人間と猫が共に暮らすために管理体制を整備する必要があるのではないかと私は考えております。そこで、次の点についてお伺いいたします。

要旨1、町は野良猫の状況をどのように把握しているのかお尋ねいたします。

○議長 辻本 一夫君

執行部の答弁を求めます。環境住宅課長。

○環境住宅課長 小田 武文君

それではお答えさせていただきます。飼い主のいない猫、いわゆる野良猫につきましては、ほぼ町内の全域で確認されるところでございますが、特に多い場所としましては芦屋港湾や西浜町、山鹿に至っては堂山、それから柏原児童公園などが挙げられます。

以上でございます。

○議長 辻本 一夫君

萩原議員。

○議員 4番 萩原 洋子君

ただいま猫の状況についてお話がありましたが、要旨2、野良猫が増えている要因を町はどう分析していますか。お尋ねいたします。

○議長 辻本 一夫君

環境住宅課長。

○環境住宅課長 小田 武文君

「猫がかわいそうだから。」とか「猫を守るためだ。」とか理由は様々あるでしょうが、飼い主のいない猫へ給餌する、いわゆる餌を与える方がおられることが、増えている要因の1つであると考えております。給餌することで猫の栄養状態がよくなり、多くの子猫を産むことが可能になってしまいます。つまり、猫に不妊手術を施さないで安易に餌を与えることが、逆にかわいそうな猫を増やす要因になっていると考えております。

以上でございます。

○議長 辻本 一夫君

萩原議員。

○議員 4番 萩原 洋子君

今、執行部から、猫に餌を与える人がいるから増えているという話がありましたが、先ほどの野良猫の状況把握では全域という話がありましたが、特に港湾、西浜、堂山、柏原、海の沿岸に生息しているんじゃないかと思いますが、環境の問題はないのでしょうか。

○議長 辻本 一夫君

環境住宅課長。

○環境住宅課長 小田 武文君

環境の問題ですか。

○議長 辻本 一夫君

萩原議員。

○議員 4番 萩原 洋子君

環境の問題ということは、芦屋町が海に面しているから野良猫が生息しやすい環境にあるのではないかというお尋ねです。

○議長 辻本 一夫君

環境住宅課長。

○環境住宅課長 小田 武文君

失礼いたしました。

海に面していることで釣り客などが放置していった餌や魚ですね、そういったもの、それから海辺ですのでイワシなんか干してあったりとか、そういったところも環境としての、猫が増える餌としての要因はあると思っております。

以上です。

○議長 辻本 一夫君

萩原議員。

○議員 4番 萩原 洋子君

要旨3、ただいま執行部からも話がありましたように、猫が増える要因は猫に餌を与える人がいること、また、海に面している芦屋町は野良猫が増える環境に適しているということであれば、今後何もしなければ野良猫は増え続け、様々な住民トラブルが発生する可能性が高いと考えます。町は、野良猫を増やさないよう何か取り組む考えはおありなのか、お尋ねいたします。

○議長 辻本 一夫君

環境住宅課長。

○環境住宅課長 小田 武文君

今後のその取組の考えはないのかというところですが、案としましては猫を増やさないよう不妊手術をし、元いた場所に戻すというTNR活動というものを考えております。

このTNR活動といいますのは、飼い主のいない猫の繁殖を抑え、自然淘汰で数を減らしていくことを目的に捕獲（T r a p）しまして、不妊手術（N e u t e r）を施して、元の場所に戻す（R e t u r n）する活動のことをいいます。この不妊手術を行うことによりまして、これ以上猫が増えることを抑制し、また、雌猫の発情の鳴き声や雄猫のおしっこの臭い、こういったものが軽減されることが期待されます。不妊手術を実施した猫につきましては未実施の猫と識別をする必要がございますので、不妊手術を実施した猫には耳にV字のカットを入れることとなります。そして、処置後については元いた場所へ戻すこととなります。

このような野良猫を増やさないための具体的な取組やその制度設計につきましては、まずは芦屋町環境美化推進委員会において検討していきたいと思っております。先進地の取組を視察し、一緒に取り組んでいただける方を増やすような支援策などについても、委員の皆さんの御意見も伺いながら検討していく必要があると考えております。

以上です。

○議長 辻本 一夫君

萩原議員。

○議員 4番 萩原 洋子君

ただいま執行部が、TNR活動で自然淘汰していく方向で今後の対策を考えていくというお話がありました。自然淘汰ということになりますと、町がTNR活動を行った場合、住民が「猫が減ったね。」と実感できる期間はどれぐらいかかるのでしょうか。お尋ねいたします。

○議長 辻本 一夫君

環境住宅課長。

○環境住宅課長 小田 武文君

野良猫の寿命は一般的には5年程度と言われております。この活動を行うことによりまして、

令和3年第4回定例会（萩原洋子議員一般質問）

直ちに猫の数を減少させることはできません。しかし、将来的な野良猫の妊娠・出産を防ぎ、猫の数が激増しない効果が見込まれます。このことから、事業開始より5年経過後から少しずつ効果が現れ、減少するものと考えております。

以上でございます。

○議長 辻本 一夫君

萩原議員。

○議員 4番 萩原 洋子君

今、説明がありました執行部が取り組もうとされているTNR活動についてなんですが、例えば岡垣町では県の事業を利用し、地域猫活動という取組をされています。これは野良猫の不妊・去勢手術などの費用を県が助成し、その後の野良猫の世話をですね、地域のボランティアグループが行うという取組で、現在3団体が行っているという話を聞いております。

しかし、先ほど説明のあったTNR活動は、捕獲し、去勢し、そして元いた場所に帰すというところで終わっておりまして、猫を世話していく人というのが決まっていなわけなんです。そうになると住民のほうは、とてもちよっと困るんじゃないかなと考えます。町内には、ボランティアで保護猫活動を熱心に行っている住民もいます。また、猫に餌を与えているという住民もおられます。既に様々な形で猫に関わっている住民が地域におられます。その中で、住民や地域の方々の今後の理解や協力も本当に必要になってくると思うんですが、その点について何かお考えはあるのでしょうか。

○議長 辻本 一夫君

環境住宅課長。

○環境住宅課長 小田 武文君

現状、餌を与えておられる方には、理由を説明しながら餌やりを控えていただけるようお願いをしているところでございますが、このような方に、そこまでの猫好きを生かして今後は保護猫活動のほうに協力していただけないか、そのような方向でもお話をしてみたいと思います。こういった方や既に保護猫活動をしておられる方、専門家などを交えまして委員会を組織できれば、飼い主のいない猫との共存ができていけるのではないかと考えるところであります。

野良猫に不妊手術を施して元に戻す取組について、具体的な事業の時期ですが、春前には取り組みたいと思っております。

以上でございます。

○議長 辻本 一夫君

萩原議員。

○議員 4番 萩原 洋子君

令和3年第4回定例会（萩原洋子議員一般質問）

ただいま、実施時期は春ぐらいには着手したいというお話があったんですけども、今回皆さんで検討していただけるという環境美化推進委員会、これは、特に猫に関する専門的な観点で御意見いただける方は御参加してなかったように感じてますが。猫の問題は、感染症や法律の問題などいろいろ考えないといけない部分もあると思うんですが、例えば弁護士、それに獣医師、例えば保健所の方に委員としてですね、御参加いただいて何か御意見をいただくというようなお考えは、現時点ではないのでしょうか。お尋ねします。

○議長 辻本 一夫君

環境住宅課長。

○環境住宅課長 小田 武文君

いささか私の説明も言葉不足だったところがあるかと思いますが、春になると繁殖シーズンを迎えるということでも春と申し上げたんですけど、それまでに、まずは試しに動き出してみようと、やってみようということで動き出したいと考えております。

その中でいろんな問題点や課題も出てくると思いますので、それを環境美化推進委員会のほうにフィードバックしまして、本格実施に向けた取組とかに活かしていきたいと思うんですが、この環境美化推進委員会の現在の所掌事務なんですけれども、ごみの減量化や資源化の推進といった大きな仕事もありまして、このような組織の中に今お話にありました弁護士さんとか専門家が入ってこられますと、ややちょっとミスマッチするところがありますので、本格実施に向けて専門家に入ってください際には、別途、町の附属機関として条例に基づく委員会などを立ち上げて、そちらのほうにまた予算をつけていただくなどして、こちらのほうで本格実施に取り組んでいきたいと考えております。

以上でございます。

○議長 辻本 一夫君

萩原議員。

○議員 4番 萩原 洋子君

この問題はですね、かなり長い期間がかかる事業になります。しっかり制度設計をしていただくことが、誰かの、個人の負担が物すごくかかる、担当課の職員の負担が物すごくかかるというようなことでは長続きしません。ぜひ、しっかり制度設計していただけるようお願いいたします。

そして加えまして、猫に餌をあげている方というのが、やはり住民の中で困る方というふうに私も話を伺いました。たまたま今年の10月にですね、港湾のほうに視察に参ったときに、猫に餌をあげている方と話す機会がありました。「猫に餌をあげないでください。」と私も申し上げたんですけど、そのときに「ごめんなさい。」って言われました。やっぱり猫のことが心配で餌を

令和3年第4回定例会（萩原洋子議員一般質問）

あげている、やっぱり肩身が狭い思いをされてるんですね。でもそういう方は、やっぱりその方の話を聞くと、自分たちでも何かしたいという思いはあることが分かりました。そういった猫の餌をあげている方を排除するというのではなくてですね、先ほども執行部が言われましたように、その方たちも保護猫活動に参加してもらおう。排除するという形ではなく、芦屋町はそういった方もこのプロジェクトに巻き込んでいって、町全体でこの猫の問題に取り組んでいくような姿勢で、ぜひ、しっかり制度設計していただきたいと思います。

次に参ります。件名2、子供の居場所について。

昨年の12月定例会で、町は「住民アンケートで、無料で利用できる塾などの学習支援の場を開設してほしいとの要望が上位だったため、貧困対策を趣旨とした学習支援の場を、県の生活困窮世帯の子供に対する学習支援事業を活用し、設置できないか検討していく。このような事業で子供の居場所づくりにも努める。」と答弁されました。しかし、その後ですね、それに関連する予算は計上されておりませんし、また、動きも見えておりません。長引くコロナ禍で家庭に問題を抱える子供も増え、来年はさらに増える可能性があると考えております。そのため昨年も申し上げましたが、町に多くの見守りの目を増やすためにも子供の居場所は必要だと考えております。そこで、次の点についてお伺いいたします。

要旨1、昨年の12月定例会で答弁された学習支援の場の開設は、その後どのように検討されたのかお尋ねいたします。

○議長 辻本 一夫君

健康・こども課長。

○健康・こども課長 志村 亮二君

学習支援の場の開設の検討状況についてお答えいたします。昨年の12月定例会におきまして子供の貧困対策を趣旨とした学習支援の場の設置を検討している旨の回答をいたしました。健康・こども課といたしましては、新型コロナウイルスワクチン接種業務の所管課として課を挙げて同業務に従事したため、学習支援の場の開設までには至っていないのが現状です。

現在は他自治体からの情報収集等を行っており、今後は関係機関との協議や他自治体の事例を参考にし、町民のニーズに合った事業の展開を検討したいと考えています。

以上です。

○議長 辻本 一夫君

萩原議員。

○議員 4番 萩原 洋子君

ただいま執行部から話がありました。確かに健康・こども課は、この新型コロナにおけるワクチン接種も担当し、昨年から本当に多忙を極めて業務に当たられているというのは重々存じてお

令和3年第4回定例会（萩原洋子議員一般質問）

ります。しかしながら、普段から町は子供たちのことをよく考え、前回あれだけの答弁の回答をされました。今のお話ですと、コロナの業務で手いっぱいになってて、そこの点ができないというようなお話で私は受け止めましたが、そういった理解でよろしいのでしょうか。

○議長 辻本 一夫君

健康・こども課長。

○健康・こども課長 志村 亮二君

はい。そのとおりです。

○議長 辻本 一夫君

萩原議員。

○議員 4番 萩原 洋子君

今確認しましたところ、ワクチン接種業務に人手を要しているため、なかなかこの問題に取り組む人手が確保できない。つまり、マンパワーの問題が影響しているということで私は理解しました。

町がワクチン接種を順調に進めることは、町民にとってとても重要なことです。ですが、近年度重なる児童虐待死事件を踏まえれば、子供たちへの支援も本当に重要なことです。町の事業の中で、どれが重要でどれが重要じゃないか一概に言えませんが、命に関わることは間違いなく重要です。この問題を解決するに当たり、マンパワーの問題を町はどう考えているのかお答えください。

○議長 辻本 一夫君

総務課長。

○総務課長 松尾 徳昭君

マンパワー不足につきましては、業務多忙で今後業務の継続性が見込まれる場合は、状況に応じて正規職員の配置や会計年度任用職員、任期付職員の配置で対応していきたいと考えております。特に今年度は新型コロナウイルスワクチン接種の事務量が多いことが予測されましたので、健康・こども課に1名職員を増員するなど、状況に応じて職員配置を行っています。

また、正規職員の採用につきましては定年退職者や新たな事業等の展開、業務量の増大等に対して職員が必要と判断した場合は、芦屋町人事協議会で採用について協議を行い、職員の人数を決定しております。来年度に向けて、よりよい人材を確保するため、現在も職員採用試験の受付を行っているところでございます。

また、業務量の増大により緊急的に職員等が必要な場合には、一般的な事務につきましては会計年度任用職員を任用して対応するようにしております。専門的な知識を有する業務、例えば保健師や社会福祉士、教員などについては任期付職員として任用し、対応するように考えておりま

令和3年第4回定例会（萩原洋子議員一般質問）

す。会計年度任用職員につきましては事務能力を評価し、一定水準以上の評点があれば最大3年間継続して任用できるようにしております。任期付職員についても同じように、一定水準以上の評点があれば最大5年間継続して任用できるようにしております。

以上のように、定期的な職員の採用や会計年度任用職員、任期付職員により全体的なバランスや財政面を考慮し、適切な人材配置を行っていきたいと考えております。

以上です。

○議長 辻本 一夫君

萩原議員。

○議員 4番 萩原 洋子君

今のお話ですと、人を増やせばこの問題は解決するのでしょうか。どうお考えでしょうか。

○議長 辻本 一夫君

総務課長。

○総務課長 松尾 徳昭君

人を増やせばすぐ、という形にはちょっとならないかと思います。やはり職員もいろいろ育成をしていかないといけない部分もありますし、職員も増やした中で質を上げていって、業務を続けていくということが必要になるのではないかと考えております。

以上です。

○議長 辻本 一夫君

萩原議員。

○議員 4番 萩原 洋子君

今お話がありました、コロナ禍の影響でワクチン接種という想定外の業務が加わったことで、現在の人員で新たな事業を行うための調査研究が進まなかったというのは理解できます。ただ、今年度職員も配置してますよね、今の話ですと。じゃあ、なぜ進まなかったのでしょうか。

そして、でも今後も想定外の事が起こらないとは言えませんよね。想定外の事が起こっても、普段から対応できる柔軟な体制をつくっておくことが、役場の行政の中で必要なんじゃないでしょうか。人を増やすのか、先ほどお話がありましたように。仕事を減らすのか、職員のスキルアップなのか、必要のない仕事はないのか、何に時間を取られるのか、また従来のやり方を見直すことは必要ないのか。職員の研修、AIの導入、即戦力になる専門職の雇用やアドバイザー契約など、あらゆる視点から働き方を見直してはどうかと思います。朝から晩まで休日まで返上して働いていても、人は疲弊し、よい仕事はできません。町の職員の方々には質の高い仕事をしていただき、それが住民サービスの向上につながるのではないのでしょうか。ただ単に、会計年度任用職員を入れます。頭数が増えても仕事が進まなければ一緒です。



私はこの問題が、子供の支援の問題がですね、マンパワーの問題で動かないということでお話がありましたので、町長、その点についてどうお考えなのかお答えください。

○議長 辻本 一夫君

町長。

○町長 波多野茂丸君

マンパワーの件で御質問がございましたので私のほうから答弁させていただきますが、御承知のとおり行政には常に住民サービス向上のための施策等を検討し、実施することが求められております。先ほど御提案のあった猫の問題、これもマンパワー。担当するには人間が要りますよね。

そういうようなことで次から次に新しく、時代は今ちょうどコロナの関係で、コロナ禍の今からの行政はどう進んでいくかという問題も今ぶつかっておるわけでございまして。その辺で、じゃあ今やってる住民サービスの件はお留守になっていいのかというような問題も、たくさん問題を抱えておるわけでありまして。そのため、各課では業務の優先順位をつけて実施計画に計上し、検討に時間を要しているものもあるわけでありまして。おおむね大体3年間のローテーションのPDCAサイクルにて見直し等を行っております。質の高い業務を進めていくことは住民サービスの向上につながるものであり、芦屋町のみならず全ての行政がこのことについては、今、頭を痛めており、そういう形で行政は私が今言ったところを目指して、どこの行政も目指しておると思います。

また、今後は事業の専門性・緊急性を考慮して必要に応じて、先ほど総務課長もちょっと触れましたが、一定期間の外部人材の登用等を考えていくことも必要となろうかと思っております。それで業務のバランスを考えて、住民サービスの向上につなげていくことになろうかと思っております。

今ちょうどそういうことで、今、萩原議員が言われた行政のですね、過渡期というか曲がり角というか、その点は十分御理解を賜りたいと思います。よろしくお願ひ申し上げます。

○議長 辻本 一夫君

萩原議員。

○議員 4番 萩原 洋子君

芦屋町はコロナワクチンの接種も、本当に住民の方からとても高評価でした。一生懸命住民の方に働いていることは、もう十分知っております。ただ私が心配なのは、やっぱり職員の方々がどんどん倒れていっては、もう立ち行かないんじゃないかと思っております。しっかり働き方のほうを見直していただき、よりよい質の高い事業をぜひ進めていただきたいと思います。

要旨2、昨年「子供の居場所づくりにも努める。」と、先ほど冒頭でも申し上げましたが回答されました。その後、その点についてどうなったかお尋ねいたします。

○議長 辻本 一夫君

健康・こども課長。

○健康・こども課長 志村 亮二君

子供の居場所づくりについてお答えいたします。コロナ禍において、子供の貧困対策の一環としての子供の居場所づくりは必要不可欠であり、どのような居場所が子供たちのニーズに合った場所なのかを、他自治体の事例等も参考に検証することが必要となります。そのため現在、福岡市の子どもの食と居場所づくり支援事業など、他自治体の事例を検証しているところであります。

今後はこの検証結果を踏まえ、新型コロナウイルス感染症の感染状況等を注視した上で、芦屋町に適した子供の居場所づくりを検討していきます。

以上です。

○議長 辻本 一夫君

萩原議員。

○議員 4番 萩原 洋子君

今年の3月より、町民がボランティアで芦屋小学校区に子供の居場所でもある子ども食堂を開設し、週1回子供が利用しております。少数ですが山鹿地区の子供たちも利用しているということですが、距離もありますし夜暗くなるとなかなか行くことができません。親御さんの送迎が必要になってくるということで、多くの方がなかなか利用できないんじゃないかと思います。それについて、やっぱり山鹿地区、各小学校区、芦屋町3校ありますので、校区にそういった子供の居場所があったらいいという声は出ております。ただ、子ども食堂を立ち上げた方は子供たちが何か御飯が食べれないのを知り、自分たちでも何か動かれました。しかし開設費用や維持していくこと、誰でも簡単に、費用がかかりますのでできません。

このような中、今年の6月、郡内で初めて岡垣町が子ども食堂に補助金を計上し、併せて、国の事業でもある支援対象児童等見守り強化事業を導入しました。このように、国も子供の必要な支援の見守りを強化するための予算を取っております。ぜひ、先ほど執行部も「子供の居場所について、今動いてます。」という答弁をいただきましたので、ぜひ早い段階で強化していただくように、子供の居場所をつくっていただきたいと思います。

午前中の1番目に松岡議員も話されましたこの子供の居場所の問題は、やっぱり子供の命に関わっていくことにつながってくると思います。ぜひ、支援が必要な子供たちのために、しっかり取り組んでいただきたいと思います。

以上で、私の一般質問を終わります。

○議長 辻本 一夫君

以上で、萩原議員の一般質問は終わりました。